

みんぱく映画会

みんぱくワールドシネマ

映像に描かれる<包摶と自律>

—家族から社会を見る—



第10回上映会

2011年5月28日[土] 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料 (ただし、本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です。)

定員 450名 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

MAR ADENTRO

2004年／スペイン・フランス・イタリア合作／スペイン語・カタルーニャ語・ガリシア語／

125分／日本語字幕つき

監督／アレハンドロ・アメナバル 出演／ハビエル・バルデム ベレン・ルエダ

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

TEL. 06-6878-8210 (平日9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館



みんぱくワールドシネマ

映像に描かれる＜包摶と自律＞ —家族から社会を見る—

国立民族学博物館では、2009年秋から開始した機関研究「包摶と自律の人間学」のテーマにあわせて、研究者による解説付きの上映会「みんぱくワールドシネマ」をはじめました。第3期は「家族から社会を見る」をキーワードに映画上映を展開していきます。今回は、尊厳死を望む四肢麻痺の主人公とその家族や友人たちとの葛藤と共に、また、尊厳死をめぐる制度の在り方について描いたスペイン映画「海を飛ぶ夢」を上映します。生命的価値観が混迷している現在、この映画を通して、生きることと死ぬことについて皆さんと一緒に考えたいと思います。

第10回上映会

2011年5月28日(土) 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料(ただし、本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です。)

定員 450名 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。
毎週土曜日は、小・中・高生は観覧無料です。ただし、自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。

主催 国立民族学博物館

海を飛ぶ夢 MAR ADENTRO

2004年／スペイン・フランス・イタリア合作／スペイン語・カタルーニャ語・ガリシア語／125分／日本語字幕つき
監督／アレハンドロ・アメナーバル 出演／ハビエル・バルデム ベレン・ルエダ

司会 鈴木 紀(国立民族学博物館 先端人類科学研究所・准教授)

解説 小林昌廣(情報科学芸術大学院大学 メディア表現研究科・教授)

映画解説

若き日の事故で四肢麻痺となり、尊厳死を求めて闘ったラモン・サンペドロの手記を、スペインの鬼才アレハンドロ・アメナーバルが独創性豊かに映像化し、アカデミー賞外国語映画賞ほか数々の賞に輝いた名篇。身体の自由は失われても、想像は窓の外から海へと自在に飛び回り、口にくわえたペンを通して、はかなくも美しい情景を紡ぎ出す。難病による死の恐怖に怯えつつラモンと同志愛以上の絆を育む女性弁護士や、日常の一切の世話をする母性に満ちた義姉、死を望む弟に反発する実兄ら家族たち。そんな周囲の愛情に包まれてもなお、自ら死を選びとる孤高な男の苦悶と恍惚に内迫したハビエル・バルデムが、命の厳肅な重みを、見事にフィルムに焼きついている。(服部香穂里)

ラモンにとって生きること

ラモンは魅力的な人物である。深い知性をもち詩をつくり、ユーモアを有している。健康な人間であれば彼を「よく生きる」と表現するかもしれない。だが、ラモン個人にとっては、そうした豊かな人間性は自分自身のものではなく、自分には希望も存在価値もないと30年近く考え続けていた。誰もが強い愛情をもった家族の存在をとりあげ、非難と激励の混ざった言葉を彼にかけるかもしれない。ラモンもまた家族を愛しているが、それは自分の意志を尊重してくれる家族だと信じているからなのだ。ラモンはしばしば周囲の人間に言っていた。自分は誰も批判しない、だから自分のこともそっとしておいてほしいと。生命の消滅を意味する死を遠ざけて生きている人間にとて「尊厳ある死」は理解しがたいものであるかもしれないが、ラモンにとってはそれを遂行することが「生きる」ことに他ならなかった。家族にしてみれば、ラモンの死を受容することとラモンの生き方を容認することは同じことだったのだ。(小林昌廣)



2011年6月19日(日)~8月21日(日)

どっぷりオセアニア

—夏のみんぱくフォーラム2011—

面積のほとんどを海が占めるオセアニアの人々は西洋世界などと出会うはるか前から、高度な航海技術をはじめとした独自の文化を育みながら生活してきました。その一端を、ダンスなどの研究公演、ウィークエンド・サロン、セミナー、映画会など、多彩なプログラムを通じて紹介します。

●今後のみんぱくワールドシネマ オセアニア映画特集
2011年7月9日(土)「裸足の1500マイル」
8月21日(日)「サムソンとデリラ」



「包摶と自律の人間学—家族から社会を見る—」

国立民族学博物館 鈴木 紀

「包摶と自律」とは、社会の中で一人ひとりの存在が認められ、かつ尊重されることを意味します。だれもが自分らしく生きるためにには、仲間はずれにされることなく、さりとて誰かのいいなりになるのでもない、適切なバランスが求められます。こうした状態を具体的に思い描くために、家族の姿に着目してみましょう。家族は社会から区切られた私的な空間ですが、社会の影響は家族の中にもいやおうなしに浸透し、家族の運命を揺さぶります。ある者の願いが、社会の変化や国家の制度と相いれない時、その家族はどのようにふるまえばよいのでしょうか。映画に描かれた世界各地の家族の葛藤と、それを乗り越えるための工夫、そして他者からもたらされる支援の受け止め方を振り返ることにより、「包摶と自律」を身近な問題として考えていきましょう。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分

*映画会のみ参加される方は、自然文化園を通行される場合、入園料が必要となります。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

*「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。

●バス

(近鉄バス) (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分

JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

(阪急バス) (万博記念公園駅經由千里中央行き)

阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。

下車、徒歩約5分

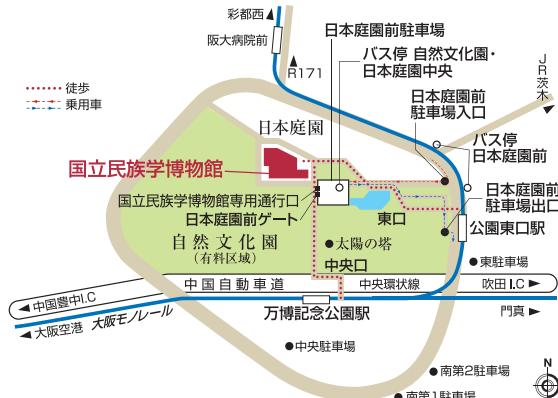
●自動車

駐車施設が無いため「みんぱく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。

最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

TEL. 06-6878-8210(平日9:00~17:00)

<http://www.minpaku.ac.jp/>



ウメサオ タダオの生き方が喚起する、未来へのイマジネーション

特別展「ウメサオ タダオ展」

開催中(6月14日まで)

開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

水曜日は休館(5/4は除く)

本館展示の観覧料で特別展もご覧いただけます。

みんぱくゼミナール

●5月21日(土)13:30~15:00

中生勝美(桜美林大学・教授)「青年ウメサオタダオの学問形成」

ウイークエンド・サロン—研究者と話そう

●6月5日(日)14:30~15:30

祖父江孝男(国立民族学博物館・名誉教授)「梅棹さんと私—出会いから民博草創期まで」

●6月12日(日)14:30~15:30

杉田繁治(国立民族学博物館・名誉教授)「梅棹流 知のマジック」



国立民族学博物館